

大地震が発生したらまず自分の身を守る

2020年1月25日発行

揺れが収まったら真っ先に火の始末で火災防止

柳谷戸支隊 情報・広報班



防災隊は今年で8年目を迎えました。私達は防災知識・方法について手順・手法を繰り返し練習してきましたが、これからも同様な訓練を続けていきます。いざという緊急時に忘れずに誰でも行動できるようにするためです。

昨年は特に強い勢力の台風により河川の氾濫が重なったために全国で多くの住民が避難しました。ハザードマップ(被害予測地図) [注1] が、広範囲の被災地で活用されたことでしょうか。町田市は昨年末から、「洪水ハザードマップ」と「土砂災害ハザードマップ」を各戸に配達し始めました。これにすでに発行済の「防災マップ」を加えた3枚で、現時点での町田市のハザードマップが構成されている模様です [注2]。

まずは、それぞれのマップに次の順序で目を通してください。①地図を広げる→②自分の家を見つける→③近くに災害が生じる可能性があるかどうか調べる→④(可能性が無くても)もし被災して家に住めなくなったらどこへ行けば良いか調べておく。

つぎに、外出先(職場や散歩先など)が地図上にある場合には②を外出先に置き換えて調べておく。

※1. 洪水災害 [洪水ハザードマップ]

昨年12月中旬に各戸へ配達されました。町田市全域の地図に水深や避難方向などに関連施設を記したものです。例えば境川流域全体で632mmの雨が降った時に、水深3~5m(青紫)の地域が幅広く発生するという予想です。我々の住んでいる小川自治会エリアから近い所では800mしか離れていないところでも発生するという予想です。近くの川に沿って散歩することがあるひとは、このマップで散歩ルートを確認しておくのは必須だと思います。

※2. 土砂災害 [土砂災害ハザードマップ]

このたび各戸へ配達されました。小川・金森……・南町田地区に関する地図へ、土砂災害の特別警戒区域や警戒区域などに関連施設を記入したものです。

※3. 地震災害 [防災マップ] [注3]

町田市南地区の地図に緊急輸送道路などに関連施設を記入したもので、2019年版は南センター等で入手可能です。2014年版等でも十分に利用できます。

それぞれの地図の裏面にはそれぞれに関連する情報が並んでいますが、私達がどこかで見たような聞いたような内容が多いので<東京防災>と<東京くらし防災>と一緒に置いておけば便利です。NTTタウンページ(株)発行「防災タウンページ」町田市保存版の新版が最近各戸へ配達されました。防災・減災の基本が学びやすくまとめてあるので、暇を見て繰り返し確認するなど我が家の減災チェックに便利です。Webでも見ることができるので携帯へ入れておけば外出時にも便利です。

[注1] 国土地理院の定義；一般的には「自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図」。

[注2] 「洪水ハザードマップ」の裏面左下「他のハザードマップも確認しましょう」参照。

[注3] [防災マップ] については災害要因が地震なので町田市全域が該当しています。

当支隊は震度5強以上の場合一時避難場所の柳谷戸公園に集まります。そして必要ならば小川小学校の避難施設(救護連絡所)に向かいます。

以上